

3-6 水辺周辺エリア



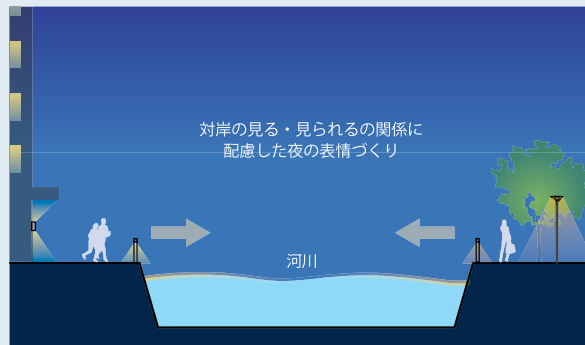
癒しとロマンの源流

世界の美しい夜景都市の多くには美しい水景が存在します。水と光はとても相性が良く、小倉都心地区を流れる河川もたくさんの魅力創出の可能性を持っています。これまでの水辺整備により形成されてきた美しい水辺の景観を積極的に活用して、あかりの見せ方や水面への光の映りこみをデザインすることで、水辺を歩きたくなる、魅力的な夜間景観づくりが望まれます。



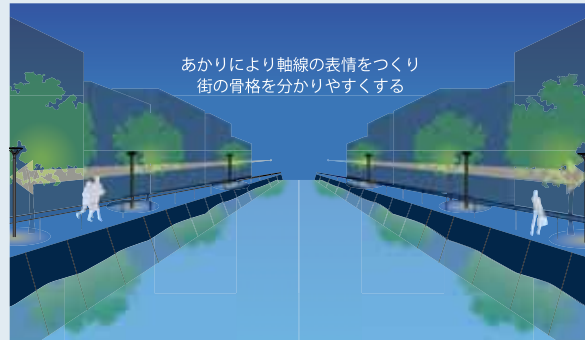
水辺のあかり

■ 見る・見られるの関係



水辺の夜間景観をつくる際は、対岸から見た光景を意識することが大切です。

■ 軸線の表情づくり



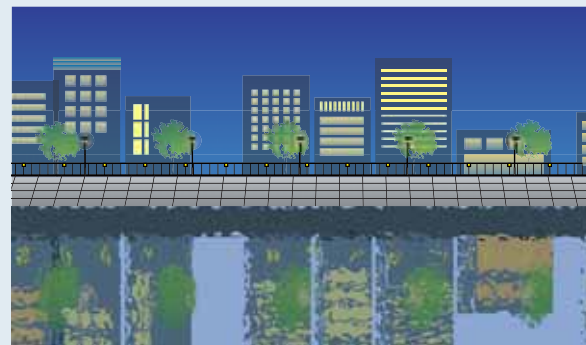
水辺の散策路などあかりの整備を行い軸線を明確にすることで来訪者にもわかりやすいまちの表情をつくることができます。

■ 祭事の演出



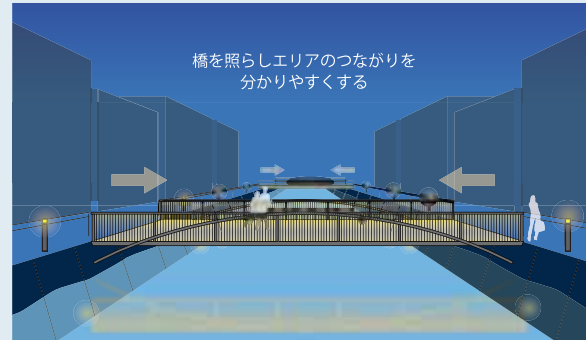
お祭りや季節の彩を感じられる時季には仮設の行燈などを利用することで水面に映るあかりが地域の魅力を高めることができます。

■ 水面に映る街の姿



水辺の建物や空間ひとつひとつのあかりが集まりまちの魅力ある水景をつくり上げています。

■ 対岸をつなぐあかり



対岸をつなぐ橋梁などをあかりで明確にすることでエリアとエリアをつなぎ人々の回遊性を高めることができます。

■ イルミネーションの演出



水辺の樹木などを活かしたイルミネーションを行うことで、水面への映りこみを利用した幻想的な世界を創出できます。

3-7 室町周辺エリア



歴史にふと思いを馳せる空間

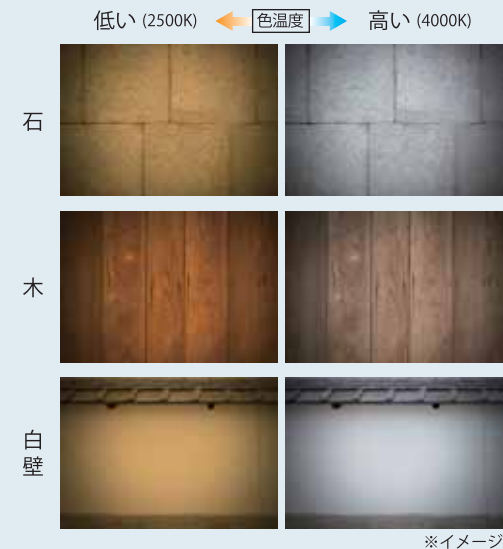
常盤橋をはじめ旧長崎街道の歴史を感じるエリアです。歩行者を優先した常夜灯の整備や歴史を感じさせるような照明の設置を行うことで、レトロな建物や懐かしいまちなみが残る景観を活かしていきたい場所です。西小倉駅から勝山・小倉城エリアや水辺周辺エリアへと繋がり、回遊性のある夜間景観づくりが望まれます。



素材とあかり

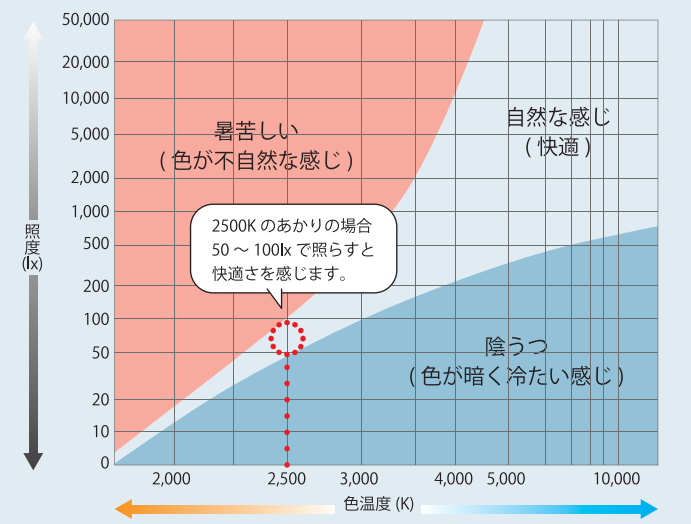
あかりの色（※詳細は6-2色温度参照）の違いによって、同じ素材を照らす場合でも違った色に見えます。そのため、照明計画を行う場合は照らす対象物や、その場所の特徴を考慮し、目的に応じたあかりの色を選択することが重要です。また、あかりの色の違いにより人が「快適」と感じる明るさが異なるため、その場所のあかりの色に適した明るさの照明器具を選択するようにしましょう。

■ あかりの色の違いによる印象の変化



色温度の低い赤みがかったあかりで石畳や木造建築を照らすことで歴史を感じる雰囲気演出できます。

■ あかりの色と照度（明るさ）の関係

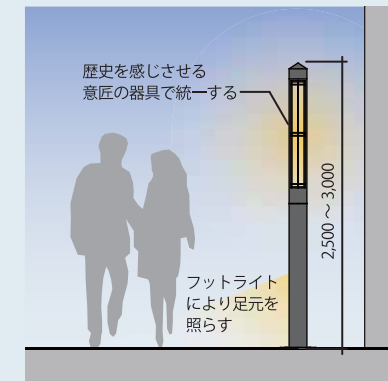


2500Kの赤みがかったあかりを用いる場合、上図のように50lxから100lxの間の照度（明るさ）で照らすことで快適な空間を創出できます。



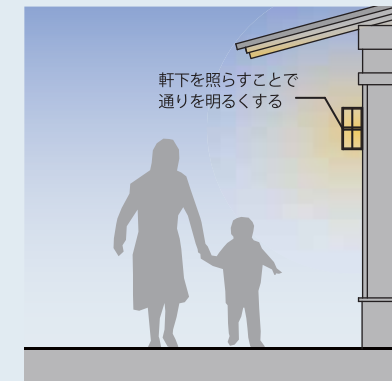
歴史ある通りのあかり

■ 歩行者に優しい照明環境



ヒューマンスケールの光は歩行者にとって安心して快適な照明環境を創出できます。

■ 通りの一体感をつくる



民間施設の軒下などに統一した意匠の器具を設置することで通りの一体感を創出できます。

■ 小路のあかり



小路などは行燈など足元を照らすあかりを配置することで暗がり減らすことができます。